

企画展「坪田譲治と産業社会」 を開催します

当館では例年、現在の岡山市出身で児童文学の分野で顕著な業績をあげた文学者、坪田譲治の関連資料を、坪田譲治文学賞の発表時期にあわせて展示しています。今回は、産業化が進む現代の社会の始まりであった昭和戦前期に、彼が文壇で名声を確立したことに焦点を当てます。

1 日時

令和7年2月6日(木)～3月9日(日) 休館日:平日の月曜日(振替休日の2月24日は開館)
開館時間 10時～18時(木曜日は11時～19時)

2 場所

岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール前展示コーナー(中区二日市)

3 内容

当館は、坪田譲治の没後、遺族などから寄贈された貴重な関係資料を多数所蔵しています。

昭和戦前期の坪田譲治は、会社経営をめぐる大人たちの争いが、純真な子どもたちの心に暗い影を投げかけることを題材に、作品を次々と発表して文壇に地歩を築きました。

明治期に自然豊かな岡山の農村で育った彼は、上京して社会人になると、会社経営の難しさや、都会で文学者をめざす生活の厳しさと世智辛さを味わいましたが、そのことが故郷への追憶との間で緊張をはらみ、孤独と疎外感に苦しむ感情が作品へと昇華しています。

そこで昭和10年代の代表作(「お化けの世界」「風の中の子供」「子供の四季」)を含むこの時期の小説や随筆等の作品、プロレタリア文学へ進んだ大学の同窓の友人たちとの交友、故郷への思いを記した書などで、坪田譲治も時代の空気を敏感に感じ取っていたことを紹介します。

4 その他

関連講座「坪田譲治と“昭和”という時代」

日時 令和7年2月9日(日) 14時～16時

場所 岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール

講師 飯島章仁(当館学芸副専門監) 定員60名(事前受付なし、当日先着順、聴講無料)

【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・沖田 直通086-223-3373

おもな展示品



小穴隆一(画)「T君」

文壇に名声を確立した頃の坪田譲治の肖像画(油絵)です。描いたのは、芥川龍之介の作品への挿絵で知られ、梅原龍三郎、安井曾太郎らとともに春陽会の中心メンバーとして活躍した小穴隆一です。この作品は昭和 16 年の春陽会展へ出品されたものです。



島田製織所の家庭用アイスクリーム製造機

坪田譲治は、父が創業したランプ芯の製造会社、島田製織所の経営に関与したことから、会社経営をめぐる争いをテーマにした昭和戦前期の小説にさまざまな題材を得ています。



小説「子供の四季」(昭和 13 年)の初版本

子どもたちが主人公のこの長編小説で、坪田譲治の名声は確立しました。その初版本では、本体と箱を小穴隆一がデザインしています。



坪田のもとにあった青野季吉の著書

プロレタリア文学の論客であった青野は、坪田譲治とは早稲田大学の同窓で、生涯にわたる友人でした。ここに示したのは「私の文学日記」「マルクス主義文学闘争」「文芸と社会」「文学と精神」の各書です。